

# はじめに

- 1 住宅白書の発行の目的
- 2 住宅白書の構成

## 1

## 住宅白書の発行の目的

豊島区では、平成31（2019）年3月に、「安全・安心に 自分らしく暮らせる 魅力あるまち・としま」を基本理念とした豊島区住宅マスタープランを策定しました。

本計画にも位置付けられている、「豊島区空家活用条例」による空き家活用の取り組み、「豊島区マンション管理推進条例」の運用は、豊島区の住宅施策を特徴付けるものであり、国や都の政策に先行しているものとして取り上げられてきました。また、SDGs未来都市として、その理念に基づき都市整備、福祉施策等、関連分野と連携し、基本理念の実現にむけた様々な住宅施策に取り組んでまいりました。

一方、令和2（2020）年から今日まで、新型コロナウイルス感染症による社会経済情勢への影響は、住まいにも大きなインパクトを与えてきました。令和5（2023）年現在、日常を取り戻しつつありますが、住宅確保要配慮者\*の多様化、少子・高齢化の一層の進展、建築後30年以上の高経年マンションの増加等、住まいを取り巻く状況は、刻々と変化しています。

豊島区では、こうした住まいの諸状況を踏まえ、後期5年間を計画期間とする住宅マスタープランを改定します。計画を改定するための資料として、「豊島区住宅白書2018」に引き続き、区の住宅及び住環境の現状について基礎的な調査・分析を行い、結果をまとめました。

住宅及び住環境に係る様々な課題を解決していくためには、行政だけではなく、区民の皆様、民間関連事業者の皆様とともに住宅政策を進めていくことが必要です。本白書は、住宅マスタープランを改定するための基礎資料として活用するとともに区民の皆様、民間関連事業者の皆様に区内の住宅及び住環境に関する情報をまとめた冊子として提供し、認識を深めてもらうことを目的としています。

豊島区住宅白書は、豊島区住宅基本条例第8条の規定に基づき、豊島区の住宅及び住環境の実態に関する調査を行い、その結果を取りまとめ、公表するものです。

## 2

**住宅白書の構成**

本白書は、平成31（2018）年度に発行した「豊島区住宅白書2018」に準じた構成とし、「豊島区住宅マスタープラン（平成31（2019）年3月）」の前期5年間の住宅・住環境の動きや実績などに加えて、住まいに関連する話題を掲載し、興味をもって読んでもらえるよう工夫しています。

第1章「住まいを取り巻く新たな動き」では、国や東京都の住宅施策の動向をみていきます。

第2章「豊島区における住宅施策の取組み」では、豊島区の住宅問題について、区内の実態と、これまで豊島区が取り組んできた施策をみていきます。

第3章「豊島区の住生活の実態」では、区内の住宅及び住環境に関するデータを取りまとめています。

第4章「新たな住宅政策の視点」では、現行計画である「豊島区住宅マスタープラン」の目標に対する実績と評価、住宅施策に関する各事業の実績を取りまとめています。

巻末には、統計表、公的住宅などの一覧、用語集を掲載しています。

**■統計表の注意**

- ・出典が「住宅・土地統計調査 豊島区特別集計」とあるものは、本区が独自に集計を行ったものです。
- ・比率は百分率で表示し、小数点以下第2位を四捨五入しています。ただし、元の数値が少数点第2位までのものについては、少数点第2位まで示しています。
- ・割合の合計は、端数処理を行っているため100.0%にならない場合があります。
- ・統計上、内訳と合計の数値が一致しない場合があります。

**■用語の解説**

- ・本文中（\*）がついている用語については、用語の解説を参照してください。
- ・※がついている用語については、文末又は図表の下（注）を参照してください。